

令和6年5月23日

令和6年

第5回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和6年5月23日（木曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史	教育長
三 留 利 夫 委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子 委 員	
高 橋 幸 子 委 員	
深 澤 佳 己 委 員	
北 内 英 章 委 員	

2 出席職員（12名）

教育総務部長	今 井 健太郎
参事（教育施設担当）	河原田 光
教育総務課長	鈴 木 孝 司
教育施設担当課長	小野澤 行 平
副参事（教育施設調整担当）	小 池 武 道
副参事（教育地域力担当）	長 岡 誠
学務課長	高 野 恭 子
指導課長	細 田 真 司
指導企画担当課長	木 下 健太郎
学校支援担当課長	鈴 木 啓 介
教育センター所長	早 田 由香吏
大田図書館長	後 藤 清

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

(午後2時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和6年第5回大田区教育委員会定例会を開会いたします。
本日は、傍聴希望者がおります。
委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に北内委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。
続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

私からは、3点ご報告をさせていただきます。

まず1点目は、5月2日にみらい学園初等部を訪問したことをご報告いたします。みらい学園初等部は、本年度、不登校の学びの多様化学校の一つとして、今年度、開設いたしました。4年生から6年生までのお子さんが、みらい学園に通っております。その授業の様子を見せていただきました。

授業は、紙コップをたくさん使って、それを重ねて造形するというような活動を行ってまいりました。初め、先生の説明を聞いて、それぞれお子さんたちはコップを持ってきて、それを重ねて活動していました。さすがにグループでやるというよりも、個別に重ねて活動している子が多かったのですけれども、それぞれ工夫をして、活動を始めました。

その活動に対して、指導の先生であるとか、補助する方が十分にいて、相談していました。見ていると、やはり人と積極的にコミュニケーションをするというタイプではなくて、やはりそういうのがちょっと苦手なのかな。一人、こつこつと積み上げていくというのですかね。そういうことをやっておりました。側にいる指導員の先生方が、非常に丁寧に関わっていただいて、いろいろ考えながら折っておりました。

不登校特例校、学びの多様化学校のお子さんたちにとっては、やはりそういう自分の思いを形にしたり、そういう時間というのは、なかなかいい時間なのかなというふうに思いました。

ふだんの授業ですと、やはり通常の学級の授業ですと時間が決まっていて、その中でやることが決まっていて、それができるか、できないかというようなところもあるのですけれども、じっくりと自分の考えをつないでいくというのですかね。そういう活動が大変こどもたちにとっては、いい活動なのではないかというふうに思います。

また、それに関わっている指導の先生が、その生徒たちの活動をつなげていくという、発展させていく、そういうような視点が必要なのかなというふうに思います。

いずれにしても、従来の一斉の課題を与えて、こどもたちがやるというような形ではなくて、こどもたちの学びの速度であるとか、関心に合わせたそういう取組として、非常にふさわしいのではないかなというふうに思いました。

ぜひ、ここでの活動が、こどもたちの自信になればというふうに思っています。

続いて、2点目は、5月9日と5月10日の2日間にわたって、全国の都市の教育長協議会研究大会が長崎でありましたので、それに参加してまいりました。

1日目は、文部科学省の方が来て、教育課題について、予算についてのご説明をいただくとか、そういうような様子で、私のほうは、学校教育分科会の中で勉強をさせていただきました。全国といっても、大田区は73万人の人口があって、4万人のこどもたちがいるのですけれども、やはり全国にはいろいろ規模があって、課題もそれぞれ違うのだなというふうに思いました。

その全国大会の中で私が一番印象に残ったのは、やはり2日目の研修のときに、長崎の原爆についての視察といいますか、行ってまいりました。

長崎は二度目で、原爆のその公園も2回目だったのでですけど、今度は、詳しくお話を聞くような機会があって、大変勉強になりました。

平和記念公園は、北村西望ですか、平和の像が建っている所なのでですけども、ちょうど上空の500メートルぐらいの所で原爆は爆発したそうです。そのときの爆発の温度は、4,000度というようなことを言っていました。秒速400メートルの爆風が起きたというようなことの説明を聞きました。

あの爆心地の平和公園の所は、いわゆる刑務所というのですかね、そういう所でしたが、一瞬にして生存者がいない、もう焼け焦げた状況になってしまいました。やはり原子爆弾の恐ろしさとよく言いますけれども、一瞬にして多くのものを破壊してしまう、やはり恐ろしい威力がある。そういうものは、人間が、人が住んでいる所に落とすのかというような、それが戦争というものの恐ろしさかなというふうに思いましたけれども、実際に話を聞いて、長崎市民の3分の1が何らかの形でそれで亡くなるというような悲惨な状況のお話を聞きました。

お話のほうは、当時、小学校1年生だったという方のお話を聞いて、やはり実際に行ってみてお話を聞くと、その原子爆弾の威力といいますか、悲惨さといいますか、それを体感させていただいたかなというふうに思っています。

それとともに、その原爆もそうですけれども、長崎というまちが、非常にそういう悲しい歴史も乗り越えながら、元気にこどもを育てていこうというような意志が強く、その研

究大会でも伝わってまいりました。長崎のくんちというのですかね。お祭りがあって、そのときに龍が卵を産む踊りがありますが、それを地元の高校生が、みんなで演じていること、また、そのお祭りのときに、地元の若者が、太鼓をたたくのですけども、非常に勇壮な太鼓でした。

そういう意味では、歴史というか、積み上げてきたものがあるというのですかね。長崎といいますと、やはりその海外との出島であるとか、また、キリシタンの悲しい歴史であるとか、そういった様々ありますが、そういうものを踏まえながら、今のまちをつくっていく、その中心になるのは若者たち、こどもたちだというような姿勢を感じることができました。

大田区も羽田空港があって、これからというか、これまでも積み重ねてきたという歴史がありますし、世界に開かれているというようなところでは、似ているのかと思いますが、長いこれからの大田区をつくっていくというのですかね、未来をつくっていく場所にしても、必要なのかなというふうに思っ、視察を終えたところでございます。

いずれにしても、非常に勉強になりました。ぜひ、今回の視察は、感じたこと、考えたことを教育のほうに、大田の教育に生かしていければというように思っ、ございます。

私からの報告は、以上でございます。ご意見・ご質問等がありましたら、お願いいたします。

○三留委員

ただいま、教育長から大森第四小学校が所管しているみらい学園初等部の参観の話がございました。私も参加させていただきましたので、不登校対策も絡めて、思うところを述べさせていただきますと思っております。

みらい学園は、文部科学省のCOCOLOプランに示されている不登校対策の一つである、学びの多様化学校の大田区での設置校ということになります。公立の初等部としては、23区初の取組と聞いております。

私も参観に同行しましたが、活動の様子を見て、その必要性を感じたところでございます。少人数で4年生以上の児童の個別最適化の学習を目指しているという説明を受けました。参観した授業は、教育長も話をされていましたが、つなげて、並べて、広げていくという題材の全学年による図工の授業でした。

組み合わせを工夫して、思い付いたことを表現しようという課題で、紙コップを重ねたり、並べたりして造形を楽しむ活動でした。全担任、非常勤職員、スクールカウンセラー、運営委員などが加わって、大変手厚い支援がなされておりました。

こどもたちは、ペア、3人グループ、あるいは単独で静かに取り組んでいましたが、主体的に取り組んでいるという様子がうかがえました。創意工夫がある作品作りができていたのではないかなと思います。

教師の説明は、大変よく分かって、こどもたちが見通しをもって活動できるように配慮されていました。

学びの多様化学校については、従来の概念に囚われず、こどもの実態に合わせた取組が必要となります。1単位時間を45分でなく、1時間に設定しているというのも、児童の学習のペースなど、実態を考慮したものだと思います。こどもの様子に合わせた柔軟な教

育課程編成、日々の学習の工夫などが必要になってくると思っています。

今後、学校型の学びの多様化学校の設置については、新おおた教育ビジョン、個別目標5、「自分らしく生き生きと生きるための学びを支援します」の重点項目となっております。分教室型である大森第四小学校所管の初等部、御園中学校所管の中等部の取組は、令和12年度開校予定の学校型の学びの多様化学校の教育活動の基盤となり、今後の活動の充実に期待しているところでございます。

このことに関連して、今年度から、令和10年度対象の大田区不登校対策アクションプランについて感じたことを述べさせていただきます。大田区では、不登校が国や都の平均よりも少ないものの増加傾向にはあります。喫緊に対策を取っていく必要があります。

前文には、「不登校児童・生徒の要因や状態、ニーズを求める学びの場は様々であり、児童・生徒一人一人に対するアセスメントと支援、多様な学びの場を充実する」とありますけれども、不登校の要因の多様化を踏まえ、様々な対策を進めていくことは、大切なことと思っております。

これを受けて、いろいろな対策が打ち出されております。学びの多様化学校は、COCOLOプランにある不登校特例校としての役割のほか、不登校対策支援センターの役割を持たせていくということも、大田区ならではの取組と捉えております。

これまで進めてきた、つばさ教室の取組、NPO・フリースクール等民間施設との連携、登校支援、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの取組、メンタルフレンドの活用なども一層充実させていただきたいと思っております。

COCOLOプランで示されている校内教育支援センターの機能の一層の拡充、これもぜひ進めてほしいと思っております。

今回の案で目をひいたのは、バーチャル・ラーニング・プラットフォームによる取組です。オンデマンドによるライブ発信など、仮想空間等を活用して、児童・生徒の活動を支援する取組になります。自宅を出ることが難しい児童・生徒の社会に接する窓口になるなど、良い方向に進んでくれることを期待しているところでございます。

そのほか、大田区不登校プランでは、学校の取組、教育委員会の取組、教育委員会以外の取組に分けて、多様な施策が体系的に示されています。教育機会確保法、大田区立学校における不登校対策事業実施要領の趣旨に沿った良いプランだと思いました。

これらのことを着実に実施して、不登校児童・生徒及びその保護者の支援を進めてほしいと思っております。

○教育長

ほかに。ご質問・ご意見。

○高橋委員

同じく、5月2日に、みらい学園初等部に参りました。教育長もおっしゃっていましたが、学年別に朝の会をして、その後、全学年が集まって図工の時間で紙コップを使って、思い付いたことを表現する学習を参観しました。

一人でしている子、二人でする子、三人集まって作る子、それぞれでしたが、みんないろいろ工夫して、製作していました。

その3人のグループの子たちを見ていたのですが、すごく高く積み上げていったのですが、崩してしまった子がいて、でも、そのお友達が失敗しても、失敗して学ぶことのほうが大事だよと友達に話していたのが印象的でした。一人でやっている子には、なかなか進まなかったのですが、先生が寄り添いながら優しい声かけをしていって、一緒に進めていました。とてもみんな、楽しそうな雰囲気通っているのかなという印象でした。

2点目は、早々と5月18日に、糺谷中学校体育祭がありまして、そちらに伺いました。保護者から、こどもの姿が見えにくい、という意見が多いということで、レイアウトが変更され、保護者は、広いスペースで応援することができて良かったなと思いました。

当日は、とても暑い日でしたので、熱中症になった生徒もいました。これから、やはり熱中症に気を付けて運動とকাশないといけないなと思いました。

私たちが見る席の近くで応援している生徒たちがいたのですが、その生徒たちに、先生も混じってとても熱気が感じられる応援をしていました。とても楽しい1日でした。

ありがとうございます。

○教育長

ほかに。

○深澤委員

私は、5月21日に大森東中学校の指導訪問に同行いたしました。そこで、いろいろ授業を拝見したのですが、特別支援学級の理科の授業が非常に印象的でしたので、報告させていただきます。

その理科の授業では、アサリを解剖するという授業でしたが、先生の指示が非常に明確で、例えばアサリを先生の所に取りに行くであるとか、アサリを解剖する前に、撮影をして保存しておくというような作業、あと、アサリの解剖の作業ですね。一つ一つが先生の指示が非常に明確だったので、生徒たちも非常にスムーズに対応できていると思いました。

その解剖したアサリなのですけれども、先生が、あらかじめ用意した入水管、取水管、えらというような部位ごとのスペースに解剖したものを置いていく作業だったので、その解剖をしたものがどの部位なのかということが、非常に生徒たちに分かりやすくなっていて、先ほど、教育長もおっしゃっていたこどもたちの成長に合わせた、個に応じた指導といますか、そういうものを非常に意識して、先生が授業運営をされているなということを感じました。非常にいい授業だったと思います。

最後に、分科会で指導主事が公表するのですが、そのときに、おた教育ビジョンの「笑顔と温かさあふれる未来をつくり出す力を育てます」という理念が示されました。そこから温かさを持った指導が大切なのだというお話がありましたけれども、生徒たちが理解しやすい授業でありますとか、あと、事前に理解しやすいような準備をしていくというような点から、先生のこどもたちへの温かさを感じて、非常にいい授業であるというふうに感じました。

それともう一つ、報道で2026年までに、離婚後の両親の共同親権が施行されるという報道がありました。それについてなのですけれども、この議論は、もうずっと前からあったのですが、法律家の間でも、非常に賛否が分かれるところでした。私は、共同親権には

反対なのですが、施行されるということなので、それを前提にお話しします。円満に離婚ができた両親は、多分、その学校との関係でも問題が生じることは少ないと思うのですが、そういう両親ばかりいないので、共同親権が施行された後には、いろいろな問題が出てくるのではないかと考えております。

それで、今回、共同親権を導入するという理由が、子の利益のためとうたわれておりますので、施行後のことですが、学校教育としては、子の利益のためになるかどうかという視点から判断していくべきであると考えております。

その際には、こどもの意見をきちんと聞く、そして、こどもの意見を大切にして、先生方が判断をしていくという作業が大事になってくるのではないかなと思っておりますので、今後の共同親権の議論については、これからも注視していきたいと思っております。

○北内委員

私も、5月2日(木)、今年度4月に開設した大森第四小学校みらい学園初等部を視察させていただきました。

教育長からもありましたが、学園の様子を先生に伺うと、4月8日に入室後、約1か月が過ぎ、こどもたち同士が少しずつ関わろうとしたり、活動に取り組もうとしたりする姿が増えてきているそうです。

当日は、図工の授業でした。造形遊びとして多くの紙コップを重ねたりつなげたりして、何かを作り上げる活動をしました。1人で創作しているこどももいるし、2、3人で一つのものを作ろうとしているこどもたちもいました。

こどもたちの頭の高さぐらまで紙コップを積み上げることに成功していました。協力するすてきな姿を見ることができました。

教育長から、紙コップでアーチを作ろうとしている子こどもたちに、「それは難しいから段ボールで屋根を作れば良い」と声がけされていました。

また、教育長から私への課題として、「紙コップだけでアーチを作ることが力学的にできるか」と宿題をいただきました。紙コップを持ってきたので、実演しますね。準備してきました。大きさはあるのですが、こうやって、こうやって、それで、これが一番最小のアーチですよ。1個。

次、2個。なるべく最小で作っていくこと、2個もできます。

次に、3個。3個も家では成功したのですよ。こうやって、3個もこれでできるのですよ。ここのちょうどコップのふちの所に立てたらできるのです。

でも、4個以上は、やはり宙ぶらりんに浮くので、難しいです。できないとは、ちょっと言えないのですが、というのは、ここのコップとテーブルの摩擦力が大きかったら、お互いを押し合っできる可能性がまだ残っているので、できないとは言えないのですが、4個からは難しいです。

だから、あのときの教育長のこどもたちへの声がけは、妥当だったということですね。

話を戻りますと、みらい学園初等部は、住宅街に囲まれた3階建ての建物で、まず2階で環境音楽が流れる静かな環境の中で、児童と先生が事前打合わせをした後、3階で学びます。

周囲は、住宅街にも関わらず、明るい開けた教室でした。椅子は、バウンスボールでし

た。お弁当は持参します。

みらい学園初等部では、児童一人一人のペースで学習を進めることができるので、成功体験や自己肯定感をより高めることができると思いました。

次に、高橋先生からもありましたが、運動会の季節になりました。私も、今年度トップバッターの大森東中学校と、大森第二中学校、大森第七中学校を視察させていただきました。大森東中学校の運動会は、濱端体育祭と呼ばれ、1年生4クラス、2、3年生3クラスで、主に、大森東小学校、中富小学校、大森第一小学校の児童が進学します。

生徒の自主性を重んじた体育祭でした。各学年男女それぞれ4人の代表選手による学級対抗リレーでは、選手紹介の際に、代表クラスの応援席まで走っていき、パフォーマンスを演じました。こんなことやったり、こんなことやったり、いろいろパフォーマンスしていました。

3年生男子の部では、若手教員チームも参戦しましたが、あわや周回遅れにされるぐらいまで肉薄されました。砂ぼこりが結構舞うのですが、校庭は比較的広くて、保護者たちは、ゆったりと応援されていました。

翌週、大森第二中学校の運動会に行きました。大森第二中学校は、1年生5クラス、2、3年生4クラスで、主に入新井第一小学校、入新井第五小学校の児童が進学します。

当日もたくさんの児童が、お兄さん・お姉さんの応援に駆けつけていました。限られた校庭で、保護者たちが譲り合いながら応援されていました。地域の温かみを感じました。

生徒たちは、勝っても負けてもお互い励まし合い、思いやりを感じました。学級対抗リレーでは、2年生女子の部に（本来4人ではあるが、それ以上の人数の）教員男女混合チームが参戦しました。先週、大森東中学校の学級対抗リレーを見ていたので、妥当な選択だと思いました。

各学年学級対抗の綱引きでは、1・2・3年生全部で13回戦するのですが、全てが道路側ではなくて、校舎側のチームが勝者になりました。不思議に感じました。三留教育長職務代理者は、入新井第五小学校の校長先生をされていたので、地域の方から三留先生も一緒に連れてくるように仰せつかりました。

その同じ日の午後に、大森第七中学校の運動会に行きました。大森第七中学校は、全学年6クラスで、生徒数は最大の区立中学校です。主に、東調布第三小学校、嶺町小学校、千鳥小学校の児童が進学します。

規律を重んじるてきぱきした運動会でした。各競技、例えば、1年生のローハイド、2年生のいかだ流し、3年生の大縄跳びは、6クラス対抗なので、たいへん迫力がありました。

生徒数が多く、他校よりも広い校庭でも限りがあるので、ハイテクを駆使して運動会はオンライン配信されていました。そのため、多くの保護者・ご家族は、涼しい体育館でパブリックビューイングされていました。

また、当日、学校に来られない保護者も、オンライン配信されているので、外出先から視聴できるようになっていました。大森第二中学校の運動会の応援もそうですが、校庭など、ハード面に限りがあっても、譲り合う気持ちや配信方法などソフト面を生かすことでカバーできる良い例だと思いました。

○教育長

ありがとうございました。コップで、それができるかどうかということを実際に試してみようという意欲を持つ子どもを育てていきたいなというふうに思っています。そこでどうかなという、自分で試してみようというのはすばらしい試みです。何回かやっているうちに、先ほどのふちの所で、多分できるときがあるかと思えます。

だから、その何回の繰り返しの中でできたという喜びですね。それも一人だけでやるというよりも、アドバイスしてくれて一緒にできるとか、そういう体験が非常に大事なのではないかなというふうに思えます。

それが、本来なら遊びの中でやるとか、生活の中でもたくさんあるといいと思うのですが、それが学びの中でそういうことができるような可能性のある授業だったというふうに私も思いまして、調べていただいて、本当にありがとう。

○北内委員

厳密な回答でなくて申し訳ないです。

○教育長

ありがとうございました。

○弘瀬委員

昨日、私が、校医をやっています大森第五小学校が移動教室から戻ってきました。今回はコロナ前と同様2泊3日でした。みんな、すごく楽しかったと言っていました。

ナイトウォーク前に先生が怖い話をし、その後、暗い中を歩き、戻ってきた子どもたちは男女問わず泣いていた子どもたちが多かったと聞きました。そのほか体験学習では、土器を作ったり、おやきを焼いたり、クルミなどを活用しアクセサリーを作ったりなど子どもたちが自分がやりたいものを体験してきたということ。ハイキングで山の頂上から眺めた景色は、すばらしかったと感激をしている女の子がいました。男の子で山を下りてきて食べたソフトクリームのほうがもっとおいしかったと嬉しそうに話してくれました。

今回の移動教室に行く前の健康診断で、便秘のお子さんが多いこと、また逆に1日に3回も4回も出るといってお子さんなど両極端な傾向にあると感じています。どちらも集団で出かける前に指導するのは厳しいと感じています。便秘のおさんは、「行く前にちゃんと出して行ってね」と話しても、「そんなこと言われたって出ない」と言っていました。普段から排便習慣を付けていただきたいと思います。

それから、先ほど熱中症の話が出ていましたが、すでに熱中症の症例が出てきています。一番熱中症が多いのは夜間帯です。夜間は、湿度が高くなりますが、クーラーを消し、さらに湿度が高くなって熱中症が起こります。できるだけクーラー、扇風機などをうまく利用しながら熱中症予防をしていただきたいと思います。

最近、良質な睡眠を取るためにはどうしたらいいかということですが、睡眠時間は、十分取る必要があること、そして部屋を密室にしないと言われていています。夜間人間が吐く呼気中の炭酸ガスが充満し、息苦しくなって目が覚め、寝返りが多くなって覚醒しやすくなると言われています。できましたら部屋をわずかでも開けて寝ていただいた方が良質

な睡眠を取ることができると言われてしています。日本の住宅事情で、それが可能かどうかという問題もあるとは思いますが、良質な睡眠を取るための工夫をしていただきたいと思います。

以上です。

追加ですが、こどもたちは2,000円のお小遣いが少ないって言っていました。そうは言っても2,000円で家族や自分にもお土産を買っていました。こどもたちは物価高で思うようにお土産が買えないと言っていました。確かに大変になってきていると思いますが、少ないお金の中で工夫して物を買うことも教育上必要な事ではないかと考えています。

○教育長

自然体験としての移動教室ですね。やはり大田のこどもたちは、特に体験、それが、また元に戻ってきている。というようなことは、本当に良かったかなというふうに思っております。

また、睡眠・排便は、健康上の生活のリズムであるとか、これもやはり非常に大きな課題であるというふうに思いますので、そういうことについても、教育委員会としてこどもの健康づくりに力を入れていく必要があるのかなというふうに、聞かせていただきました。ありがとうございます。

それでは、ほかにご意見・ご質問は、ございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、本日はこれもちまして、令和6年第5回教育委員会定例会を閉会といたします。どうもありがとうございました。

令和6年 第5回 教育委員会 定例会 5月23日(木) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（教育施設調整担当）

学務課長

指導課長

指導企画担当課長

学校支援担当課長

副参事（法務担当）

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和6年5月23日

令和6年第5回教育委員会定例会日程

日程第1 教育長の報告事項